

石巻市総合防災訓練

日本カーシェアリング協会 給電訓練報告

11月5日(津波防災の日)に宮城県石巻市において、地震と津波を想定した『石巻市総合防災訓練』が行われました。日本カーシェアリング協会では停電を想定し市内各所の避難訓練実施場所に給電機能を有する自動車(電気自動車、プラグインハイブリッド車、水素自動車)で駆けつけ、車から電気を取り出し家電製品を使用する訓練を行いました。今年度は例年の電気自動車に加えてプラグインハイブリッド車・水素自動車の協力もあり市内15カ所で開催いたしました。

<防災訓練実施場所(カッコ内は参加者人数 ※各地域報告数・協会調べ)>

参加者合計:3,140人

開催場所	車両 ※敬称略	参加人数
1. 万石浦小学校	トヨタ MIRAI(トヨタレンタリース宮城) トヨタ プリウスPHV(宮城トヨタ) 三菱 i-MiEV	750名
2. 湊中学校	三菱 i-MiEV	50名
3. 鹿妻小学校	三菱 アウトランダー(一般参加)	313名
4. 吉野町復興公営住宅	三菱 i-MiEV(カーシェア会活用車両)	40名
5. 湊小学校	三菱 i-MiEV	90名
6. 中里小学校	ホンダ クラリティFUEL CELL(宮城県庁) 日産 リーフ(石巻市役所)	679名
7. 石巻小学校	三菱 i-MiEV	50名
8. 大橋仮設団地	三菱 i-MiEV(カーシェア会活用車両)	20名
9. 貞山小学校	トヨタ プリウスPHV(仙台トヨペット) 三菱 i-MiEV(一般参加)	165名
10. 下釜第一町内会	トヨタ プリウスPHV(ネットトヨタ仙台) 三菱 i-MiEV	300名
11.12. 門脇東、西復興公営住宅	トヨタ プリウスPHV(トヨタカローラ宮城) 三菱 i-MiEV	160名
13.14 新西前沼第一、第二復興公営住宅	アウトランダー(宮城三菱) 三菱 i-MiEV	90名
15. 向陽町町内会	トヨタ プリウスPHV(ネットトヨタ宮城)	433名

< 協力 > ※あいうえお順にてご紹介させていただきます

石巻市
オートモーティブエナジーサプライ株式会社様
トヨタカローラ宮城株式会社様
東北三菱自動車販売様
ネットトヨタ宮城株式会社様
宮城県
宮城三菱自動車販売様

株式会社トヨタレンタリース宮城様
仙台トヨペット株式会社様
トヨタ自動車株式会社様
ネットトヨタ仙台株式会社様
三菱自動車工業株式会社様
宮城トヨタ自動車株式会社様
三菱電機株式会社様

< 実施内容 >

9:02 三陸沖を震源とするM9.0、震度6強の巨大地震が発生し、大津波警報が発令。

15カ所の避難訓練実施場所へ電気自動車11台、プラグインハイブリット車7台、水素自動車2台の計20台の給電可能車両で駆けつける。非常時の電源として給電可能車両から電気を取り出し、その電気を活用して家電製品を使用し、車両の防災利用についての説明を行う。

各避難訓練開催場所へ



給電訓練を行う



< 各地区の様子 >

1. 万石浦小学校



2. 湊中学校



3. 鹿妻小学校



4. 吉野町復興公営住宅



5. 湊小学校



6. 中里小学校



7. 石巻小学校



8. 大橋仮設団地



9. 貞山小学校



10. 下釜第一町内会



11. 12. 門脇東、西復興公営住宅



13. 14. 新西前沼第一、第二復興公営住宅



15. 向陽町内会



防災ヘリが出動 ——— 石巻

石巻市は東日本大震災の教訓を生かした総合防災訓練を行い、1万人以上の市民が津波警報が発令された場合の避難行動を確認した。

午前9時に三陸沖を震源とするマグニチュード9

・0の地震が発生し、大津波警報が出たとの想定。

万石浦小(児童325人)では児童や保護者、地域

住民の計約700人が校庭に一時避難した後、警報

発令を受けて校舎3階の教室に移動した。

流留町内会の阿部尚孝会長(64)は「これからも意

識を高め、震災が起きても避難できるようにしたい」と

語った。同校では県の防災ヘリコプターによる救

助訓練や、電気自動車の電気を使ってお湯を沸かす

デモンストレーションも行われた。

訓練を視察した亀山紘市長は「真剣に取り組んで

もらい、心強く感じている。訓練を通じて地域の

絆を強めることが災害時の大きな力になる」と話

した。



校庭に避難する児童と保護者ら

校舎内から校庭へ1次避難する児童と保護者
(万石浦小学校)



訓練は午前9時過ぎに三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、震度6強の巨大地震が発生し、気象庁が大津波警報を発表したとの想定で進めた。住居や交通に甚大な被害が生じ、ライフラインも機能喪失。前夜までの大雨による土砂崩れの発生など、震災時よりも厳しい状況を定めた。市が防災行政無線や災害情報メールなどで避難指示を発令し、ステーションの住民各自の避難行動を開始。身の安全を確保した後、徒歩

大災害への意識と行動備え

石巻市総合防災訓練 「世界津波の日」に実施

「世界津波の日」の5日、大規模災害を想定した石巻市の本年度総合防災訓練が市内一斉に行われた。参加者自らの判断での避難行動と、地域ごとの防災活動の2つのステージで実施。災害対応を確かめるとともに、訓練目的である「自分の命は自分で守る、みんなの命は地域で支える」とした自助・共助の意識を高めた。

での移動を原則に公民館や高台など市指定の避難所・避難場所へ移動し、経路を確かめた。その後、ステージ2の自主防災会や学校主導による地域の防災訓練に移行した。このうち訓練に合わせた授業参観の登校日とした万石浦小学校は、地域防災連絡会と連携して実施。児童と保護者、地域住民の計600人以上で臨んだ。

視察に訪れた亀山紘市長があいさつで「顔の見える地域の関係をつくり、絆を強めることが災害時に役立つ」と訓練の意義を述べた。その後、石巻東消防署と消防団が指導する訓練に入り、児童らがバケツリレーや煙道避

難などを体験した。このほか同校では、陸上自衛隊多賀城駐屯地の隊員が炊き出しにあたり、日本カーシェアリング協会が停電時に電気自動車を電

クリスマス雑貨
入荷しています

住まいの館
トットタワー
石巻市大街通東1-2-3 TEL22-9142
(営業時間…10:00am～6:00pm)
毎週日曜日定休日

カーテン
半額

源として活用するデモンストラクションを実施。同協会は「この日、同校を含め計15カ所で行った訓練を行った。」

6年生の末永杏さんは「震災当時を思い出しながら真剣に訓練した。次に災害があったときの参考になることがたくさん学べた」と話していた。また訓練終了後の講評で石巻東消防署の及川正浩署長は「一人一人の行動力が地域の防災力を高める。継続的な訓練が大切」と期待を込めた。

一方、渡波中は間借りしていた稲井小から新築校舎に移ったことで、同校学区の渡波小・鹿妻小と6年ぶりに合同で訓練。ステージ2では講演会などで助け合いの大切さを学んだ。また開北町内会が地域の小中学生を対象に防災講話や非常食作りを行うなど、次の災害に備えた住民主体の防災活動が各地で取り組まれた。総合防災訓練には昨

年度、市民の12.4%が参加。市はこれまで実施日を固定してこなかったが、参加率向上と行事としての定着を図るため、本年度から11月第1日曜日としている。本年度の参加率の確定値と参加者へのアンケートの結果を、今月下旬ころにまとめて公表。次回以降の防災訓練に生かす。



三陸河北新報社
 〒986 0827
 石巻市千石町4-42
 電話 0225-96-0321
 F A X 0225-21-1668
 気仙沼支社
 〒988-0053
 気仙沼市田中前4-7-1
 電話 0226-23-3254
 河北新報メディアセンター
 〒980-8660
 仙台市青葉区五橋1-2-28
 電話 022-211-1551
 メディア猫の日
<http://ishinomaki.kahoku.co.jp/>
 © 三陸河北新報社 2017

「警報、高所に逃げろ」

石巻・大雨被害も想定し訓練

地域や学校で行動確認

ジで行われた。

津波避難訓練では、指定

避難場所の一つ、万石浦小

(児童335人)では、授業

参観中に地震が発生したと

いう想定で実施。防災ずき

んをかぶった児童たちが保

護者と一緒に2次避難場所

の校庭に集合。大津波警報

が発令されたことから、全

員で校舎3階に避難した。

この後、県防災ヘリによ

る要救助者搬送訓練や煙を

充満させた通路を通る濃煙

体験、バケツリレーなど地

域住民も参加して取り組ん

だ。

2年生の娘と参加した菊

地美里さん(39)は「貴重な

経験になりました。家で避

難場所や被災後の行動につ

いて話し合いたい」と話し

た。

石巻東消防署の及川正浩

署長は「地域住民が集まっ

て訓練を行うことは地域全

体の防災力を高める。今後

も訓練に参加してほしい」

と積極的な参加を呼び掛け

た。

万石浦小学区以外でも訓

練があり、開北会館では開

北町内会が小中学生を対象

に非常食作りや防災教室を

開いた。

一般社団法人日本カーシ

ェアリング協会は、市内15

カ所で車の電氣を利用して

コーヒィを入れたり、照明

をつけたりする給電機能

を利用した車の防災利用をP

Rした。

頑張ろう石巻

3・11東日本大震災



校舎から2次避難場所の校庭に避難する万石浦小の児童ら